

男女共同参画情報紙

2005. 12. 1

6号



いきいき羽生。夢みる羽生。

みらい

ひとひと
女と男 ともに輝く社会をめざして

特集 少子化がやってきた！



少子化がやってきた！ 羽生市はどうなの？

少子化が急速に進んでいます。

現在、1億3千万の日本の人口は、2007年から増加ならぬ減少に転じるといいます。

厚生労働省は2003年の人口動態統計で、日本女性が生涯に産む子どもの数（合計特殊出生率）が全国平均で1.29であると発表しました。

戦後のベビーブーム時代は4.54（1947年）だったといえます。現在は、その3分の1に過ぎません。

埼玉県の合計特殊出生率は1.21。

全国平均より落ちています。47都道府県の中では40番目。かつて、全国一の若い県として名をうった県なのですが…

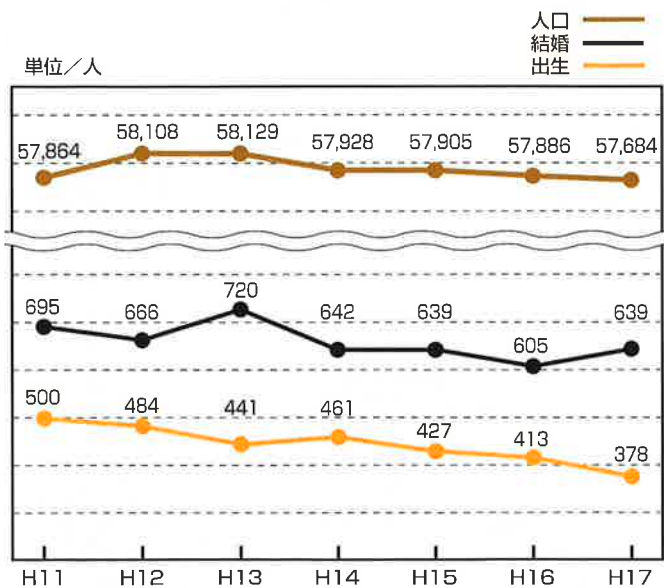
それでは、羽生市の合計特殊出生率はどのようでしょう。1.23です。

この数字をどう受けとめますか。

長期的に人口を維持するために必要な水準は2.07といわれています。

下の表は、羽生市の人口・結婚・出生の推移をグラフにしたものです。

羽生市の人口・結婚・出生の推移



資料：統計はにゅう（各年3月31日現在）

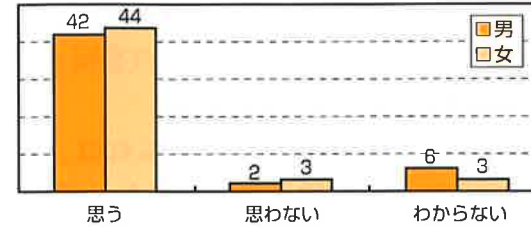


「結婚・少子化・子育て」のアンケートを実施

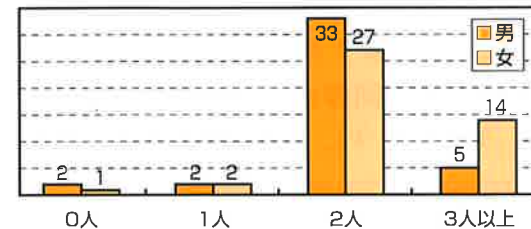
結婚・少子化

結婚・少子化については、羽生市内の独身男性（30歳前後）・女性（20歳前後）の各50名に協力をいただきました。

（質問）結婚したいと思いますか。



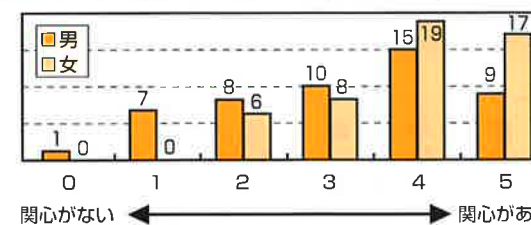
（質問）子どもは何人ほしいですか。



女性はほとんどの方が30歳までに結婚し、子どもは1人だけでなく、2人ないし3人ほしいと考えています。男性は35歳までに結婚し、子どもは2人はほしいと考えています。

少数意見として、結婚を望まず又結婚しても子どもの将来が不安だからと、子どもを望まない方もいました。

（質問）少子化問題に関心がありますか。



少子化問題は、半数以上の方が関心をもっていました。男性の中には「経済と子どもを育てる環境を整えば、少子化に歯止めがかかるはず」との意見がありました。

一方、女性の中には「女性の社会での活躍が進む中、育児に対する支援や制度が整っておらず、また、出産後の再就職が難しい」ことなどが「産むに産めないキーポイント」とであると具体的に指摘した意見もありました。

子育て

子育てについても、羽生市内保育所の3歳児をもつ保護者50名にご協力をいただきました。

※複数回答可

（質問）子育てで楽しいことはなんですか。

1. 子どもの成長（45名）
2. 子どもを通じて友達が増える（18名）
3. 家庭が明るくなった（23名）

（質問）子育てで大変なことはなんですか。

1. しつけが難しい（33名）
2. 自分の時間がもてない（28名）
3. 生活が苦しくなった（10名）

今回のアンケートでは、半数以上の方に第2子以上がおりました。また、第1子がいる半数以上の方も第2子を望んでいました。

しかし、第2子を望まない方の理由として「子育ては大変」であり「経済的負担が増える」という現実的な意見もありました。

少子化の原因は、結婚件数が減少したことや、女性の社会進出と出産年齢が上昇したことなど、さまざまな要因が考えられます。

アンケート結果から見てとれるように、独身男女の多くは結婚を望み、子どもは2人以上欲しいと考えています。しかし、「いずれは結婚したい」と思いながら、未婚のままいる男女が増えているのも現実です。結婚に至るまでの過程の難しさも一因なのではないでしょうか。

子育てにしても、働き方や家庭での役割分担のあり方、雇用機会の均等度など、少子化対策として重視すべきものはたくさんあります。

しかし、社会が「子を産み育てやすい環境」となり、男女がお互いに「家事・育児に対する思いやり」を持てば、少子化問題も多少なりとも改善されるのではないのでしょうか。

みらい 掲 示 板

審議会等への女性の参画

社会のさまざまな分野で女性が活躍し、政策・方針決定の場への女性の参画が進んでいますが、まだ十分とはいえません。

羽生市では、男女共同参画社会の実現をめざすため、審議会等への女性の参画を増やそうと、目標率を当面20%に設定し、目標達成に向け取り組んでいます。

最近の審議会等への女性の参画状況は次のとおりです。

市の審議会等における女性の参画状況 (各年6月1日現在)

年度	審議会等の総数 a	うち女性を含むもの b	比率 d/a%	審議会等の委員総数 c	うち女性委員数 d	比率 d/c%
平成13年	29	14	48.3	543	88	16.2
平成14年	33	19	57.6	539	95	17.6
平成15年	33	16	48.5	517	84	16.2
平成16年	33	18	54.5	533	82	15.4
平成17年	31	20	64.5	487	86	17.7

国・県、他の市町村の比率

区 分	女性委員を含む審議会等の比率(%)	女性委員の比率(%)
国 (H16.9.30現在)	99.0	28.2
県 (H17.4.1現在)	98.6	29.0
県内市町村 (H17.4.1現在)	69.6	22.0

女性会議委員新スタート

平成7年から女性の地位向上、男女共同参画社会の実現に向けての施策を推進する目的で設置された審議会です。

去る9月8日(木)パープル羽生において、羽生市長出席のもと女性会議委員の委嘱式が執り行われました。

5期生となる16名の委員の顔ぶれは、公募委員8名、団体推薦委員8名の皆さんです。(女性12名、男性4名)

任期2年の間に、委員の皆さんの意見をいただきながら、第2次羽生市女性行動計画「はにゅう男女共同参画プラン」策定に向けて活動していきます。



男女共同参画情報紙

「みらい」

編集委員を募集!

男女平等や女性問題に関心のある方で、写真撮影等で協力できる方を募集いたします。

対 象 年齢不問

人 員 1名

申 込 1月末日までに直接または

問 合 せ 電話でパープル羽生へ

パープル羽生

☎ (561) 1681

編集後記

この号から、編集委員が入れ替わり、新たな視点で会議が行われました。

今回のテーマは「少子化」という大変重いテーマです。今までのような誰かが担うという問題ではなく、個人の価値観、生き方が基本とされるからです。

今、様々な情報が入ってきてきますが、どうか一人ひとりが自分の将来を見据え、納得のいく生き方をしたいと思えます。

アンケートにご協力いただいた皆さま、ありがとうございます。また、ご意見等ありましたら、ぜひお聞かせください。

編集委員一同